

産婦人科におかかりの患者様へ

当院は岡山県の周産期医療の拠点病院の一つとして、県民の皆様の母子保健の向上のために診療を行っています。

胎盤が子宮口を覆う状態にある前置胎盤は、帝王切開時に大出血を起こし母体に大きな健康障害をもたらす代表的な病気の一つです。予定日に近い時期に帝王切開をすれば、緊急帝王切開が増え、手術に伴う出血量が増加することが知られているので、母体のリスク軽減のため日本では妊娠 37 週での帝王切開が勧められています。一方で、赤ちゃんにとっては、早い週数での出産は新生児集中治療室への入院に繋がり、好ましいことではありません。前置胎盤に関係するこういった背景を基に、私たちは母児の健康のバランスを考え、母体に対するリスクが低いと考えられる症例に対しては妊娠 38 週に帝王切開をするようにしてきました。

この度、私たちの病院の管理方針が正しかったかどうかを確かめるため、「無症候性前置胎盤症例の予定帝王切開を妊娠 38 週に設定することの妥当性の検討」という題名で研究をすることになりましたので、皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

○対象となる患者さん

2006 年 1 月 1 日から 2017 年 12 月 31 日までの間に、前置胎盤と診断され当院で帝王切開を受けた患者さんとそのお子さん。多胎妊娠の患者さんは対象となりません。

○調査方法

この調査研究では診療記録から以下の情報を中心に集めて行います。

患者さんの基本情報（年齢、身長、非妊時体重、分娩時体重、妊娠回数、既往歴など）

妊娠中の情報（妊娠中の異常出血の有無、超音波検査所見など）

分娩時の情報（分娩週数、分娩時出血量、分娩時合併症、止血のための処置など）

お子様の情報（性別、出生時体重、Apgar スコア、NICU 入院の有無など）

○秘密の保持

必要な情報のみを統計資料として集計しますので、院外に皆様方のお名前や個人情報が出ることはありません。

○この研究は、当院臨床研究審査委員会にて承認され、実施医療機関の長より研究実施の許可を受けて行っている研究です。研究実施期間は、許可日から 2020 年 3 月まで行っております。この調査にご自分あるいはお子様の診療記録を使って欲しくない方はお申し出ください。この調査のために上記の診療記録を使用することをお断りになっても、不利益を受けることは全くありません。その他ご不明な点等ございましたら、下記までお申し出ください。

【研究責任者】

独立行政法人国立病院機構 岡山医療センター

〒701-1192 岡山市北区田益 1711-1

Tel: 086-294-9911

産婦人科診療部 多田克彦